

中野北遺跡Ⅱ

富田林市遺跡調査会報告 8

編集・発行 富田林市遺跡調査会

住 所 〒584

富田林市常盤町1番1号

発行年月日 1997年9月30日

調査地 大阪府富田林市中野町3丁目
3067-1、3074-1
調査原因 店舗建設に伴う緊急発掘調査
調査主体 富田林市遺跡調査会
調査担当者 田中正利
調査面積 204㎡
調査期間 平成9年5月29日～9月30日

はじめに (図1)

中野北遺跡は、富田林市の北部にある栗ヶ池とその西側に広がる弥生時代から中世にかけての遺跡です。富田林市の中央を南北に流れる石川の西岸には多くの遺跡があります。中野北遺跡もその1つで、周辺には遺跡の北側を桜井遺跡に、南側を中野遺跡に接しています。これまでの調査では奈良時代から中世にかけての建物跡や井戸が見つ

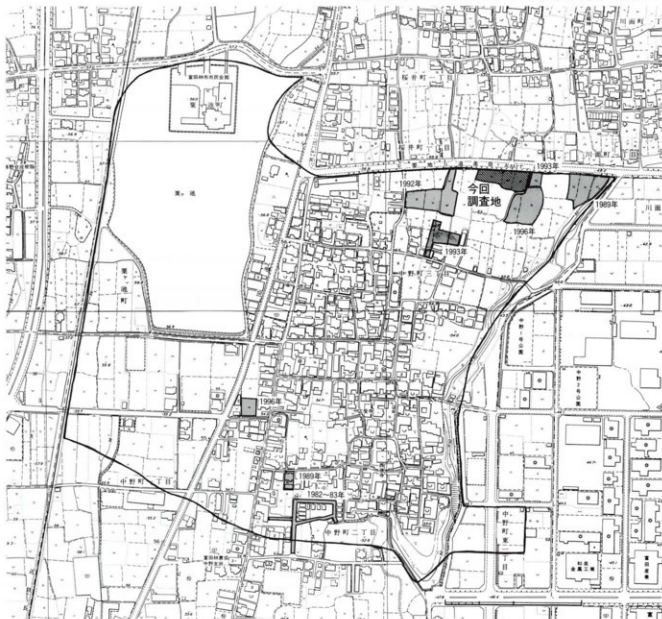


図1 調査地位置図

かっています。

今回は、遺跡の北側を通る府道美原太子線に而した地点での調査で、申請者の小田治良吉氏の協力を得て、擁壁が造られる調査地の南北の線の部分について、合計3ヶ所の調査区を設定して調査を行いました。

層序

調査前は耕作地で、現在の耕作土の下に耕作面がもう1面あることが分かりました。この古い耕作面は調査地の中央に広がっています。これはもとの地形が中央で低く、地形に沿って耕作地を2段にしたためと考えられます。遺構はすべて現況から0.3~0.4m下の地山で検出されました。

遺構と遺物

今回の調査では落ち込み2、溝8、掘立柱建物1、土坑、ピットが見つかりました。遺構は大きく4つの時期に分けることができます。

第1期は7世紀代と考えられ、この時期の遺構には落ち込み1があります。深さは約0.3mあり、第1調査区中央で西側の肩が、第3調査区中央で東側の肩が確認できました。また第2調査区や第3調査区の西側では、新しい時期の遺構に一部削平されているものの、落ち込み1と同じ埋土が断面で確認でき、このことから落ち込み1は調査地の中央に広がるものと考えられます。埋土から土師器の坏(図4-1)や羽釜が見つっています。

第2期は12世紀前半と考えられ、この時期の遺構には第3調査区の西側にある掘立柱建物や第1調査区中央の溝1、ピットがあります。

掘立柱建物は東西方向に4本の柱が並んでいる状況が確認できました。東側については溝3によって壊されており、それ以上伸びるかどうかは確認できませんでした。また南北どちらに建物が伸びるのかについても調査区の幅が狭く分かりませんでした。柱穴は直径0.3~0.5mのややいびつな円形をしており、間隔は約2mあります。柱の痕跡などは確認できませんでした。

溝1(図2)は長さ1.5m、幅0.3m、深さ0.1mの南北方向の溝です。溝の中からは、ほぼ完形の瓦器碗が2個(図4-2、3)、口縁を水平にし、高さをそろえた状態で見つかりました。この瓦器碗は溝の底面から浮いていますが、見つかった状態から何らかの理由で人為的に埋納した可能性も考えられます。埋土からは他に土師器の皿(図4-4)が見つっています。

また、落ち込み1の埋土の上から掘られたピットがあることから、この時期には落ち込み1が埋まっていたと分かります。

第3期は14世紀と考えられ、この時期の遺構としては第2調査区で見つかった溝4や、第3調査区の東側で見つかった溝7、ピットがあります。

溝4は第2調査区の大半を占める遺構で、深さは西側が約0.3mであるのに対し、東側約5m分は深さが0.8mと深くなっています。

溝7は幅5m、深さ0.5mの溝で、まっすぐ南北に伸びています。この溝の埋土が溝4の深くなる部分の埋土と同じなので、溝4の続きと考えられ、第2調査区の辺りで溝が西に大きく広がるのか、折れ曲がるようです。溝7からは瓦質土器の羽釜(図4-5)が見つっています。

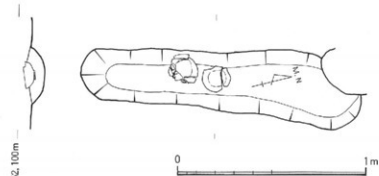
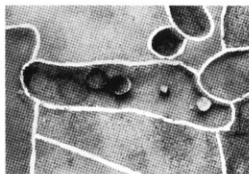


図2 溝1 平面・断面図



溝1 全景(東から)

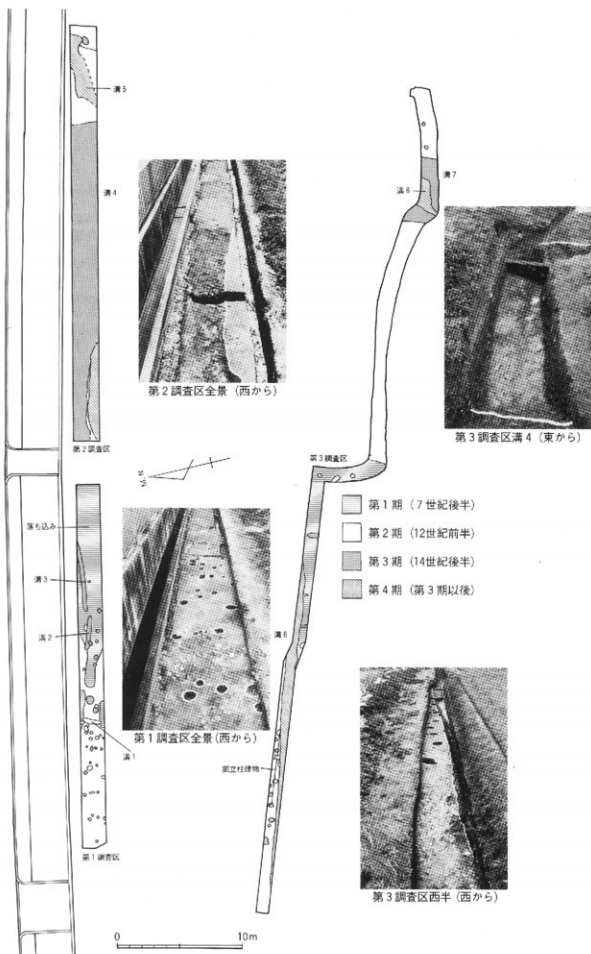


図3 遺構平面図

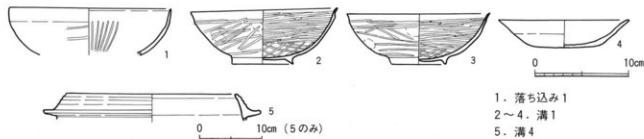


図4 遺物実測図

第4期は、見つかった遺物が少なく、明確な時期は分かりませんが、遺構の切り合い関係から第3期より新しいことが分かります。この時期の遺構には第2調査区の溝5、第3調査区西側の溝6、第3調査区東側の溝8があります。

溝5と溝8はともに深さが約0.1mと浅く、水が流れた形跡も見られません。周辺に同じ時期の遺構がないため、何のために造られたかはよく分かりません。

溝6は幅約0.8mの東西方向の溝です。底の部分に砂が溜まっており、底面の傾斜から西から東に流れる水路だったようです。

まとめ

今回の調査では、飛鳥時代から中世にかけての遺構が見つかりました。今回の調査地に隣接する1992年度、1996年度調査地においても同時期の遺

構が確認されています。ただ、今回の調査ではこれらの調査地に比べると、大きな溝などはあるものの、土坑やピットの密度が低くなっています。これは調査地の中央部が低く、人々が窪地を避けてその周辺に住んだためだと考えられます。

また、調査地東側では溝4、溝7のような幅の広い溝が見つっています。これらの溝は常に水が流れていた様子は見られません。ではなぜ造られたのでしょうか。

この溝が造られた14世紀は、南北朝の争乱の時期であり、楠木正成などの南朝軍が千早城を中心に活動していました。富田林市内でも各地に砦や陣地が造られていました。調査地の近くでも、この時期に喜志城があったと伝えられています。今回見つかった溝も、そういった施設の濠だったのかもしれない。

報告書抄録

ふりがな	なかのきたいせきⅡ							
書名	中野北遺跡Ⅱ							
副書名	富田林市遺跡調査会報告8							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著書名	田中正利							
編集機関	富田林市遺跡調査会							
所在地	〒584 大阪府富田林市常盤町1番1号 ☎0721-25-1000							
発行年月日	西暦1997年9月30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
中野北遺跡	大阪府富田林市 中野町3丁目 3067-1、3074-1	27214		34° 30° 47°	135° 36° 56°	1998.5.29 ～ 1998.6.27	204.0	店舗建設に伴う 緊急発掘調査
所収遺物	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		
中野北遺跡	集落跡	奈良時代～中世		落ち込み、溝 掘立柱建物 土坑、ピット		土師器、須恵器 黒色土器、瓦器 土質土器、瓦		
								特記事項